



16 ゆくゆく information  
市民の伝言板  
保育施設  
入所はコチラ!

22 リブリオお知らせ／ゆくく・レタス

24 消費生活センターニュース  
初代市長「末松謙澄」

25 ゴミ減量プロジェクト  
その1gを削り出せ。

26 ローカルなまちの話題を  
写真でお届け

## Photo News

トライアスロン福島さん、九州大会優勝／  
安川電機ソフトボール部 全国大会準優勝／  
行橋の名選手が勢ぞろい！「アスリートパネル」／子どもたちにも直接意見・主張の場を！「子ども議会」

特集

28 ニュースや気になることに  
クローズアップ

## 共に歩んだ70年

時代の流れとともに少しずつ変化していく  
た行橋のまちなみ。  
その変化の根底には、人々の生業や生活が  
大きく関わっています。まちづくりの主人公は、いつも市民なのです。

31 特別企画「TVでも盛り上げよう」

Discover!  
**ふるさとWish**  
FUKUOKA & SAGA  
KBC



04  
70th Anniversary

## 10.13 EVENTS

記念式典が行われる10/13は、会場周辺も含め1日中楽しめるイベントが盛りだくさん。

10/14の感謝祭には、あの芸人さんが行橋にやってきます。

06 今昔を比べてみたら  
ゆくはし今昔物語  
SPECIAL!

08 YUKUHASHI Traditional culture & arts  
秋文化系イベント

10 Community Fair ふくしまつり  
婚活イベント“PIZZA ○婚”  
ハミング通りスタンプラリー

12 すくすく 子育て応援通信

来月の子育て支援イベント  
子育てフェスタ  
もぐもぐ教室  
ママと女性のリフレッシュ講座

14 ヘルス&ケア 保健&介護

高齢者の定期予防接種開始  
臓器移植普及・骨髓バンク推進月間  
大腸がん死を減らすためには  
農作業de“元気寿命”を伸ばそう  
新たなチャレンジ！スマホ講座  
脳が生き返る！健康楽習室

YUKU  
HASHI  
LIFE

OCTOBER  
2024

10

## CONTENTS

国際総合企画撮影



Mayor's Voice

## 協創元年

～市制70周年を迎えるにあたって～

突然ですが、このマークをご存知でしょうか。



そう、これは行橋市のシンボルマーク「市章」です。行橋の「行」の字を丸くしたもので、「円満」<sup>（わんめん）</sup>「安寧」を表しています。

昭和29年（1954年）10月10日、行橋町と延永村、椿市村、稗田村、今川村、泉村、仲津村、今元村、蓑島村の1町8村が合併して誕生した行橋市。長い年月を経て、多くの市民の皆様の苦心とともに育まれてきた本市は、令和6年（2024年）10月10日にめでたく古希を迎えます。先人の皆様、そして市民の皆様には心から敬意を表し、感謝申し上げます。

70周年となる本年は、メインテーマを「協創」、キヤッキフレーズを「つなげよう 未来に向かう笑顔のバトン」とし、様々な事業を実施してきました。

例えば、若くして渡英し、世界に初めて英訳の源氏物語を広めた人物であり、通信大臣や内務大臣を務めた、卿士が誇る知の巨人、末松謙澄を取り上げたシンボジウム「末松謙澄と源氏物語」、アートを子どもたちや若い世代にもっと身近に感じてほしいとの想いを込めた野性爆弾くつきー！「乙女展」などを開催。また、市民の皆様が発案した企画に予算をつけ支援する市



民団体企画事業補助金、TBS系テレビ番組「ブレバ!!」で俳句の魅力を発信されている夏井いつき先生の「句会ライブ」、その他にも防災ワークショップなどを企画。10月以降も、元日本代表小倉隆史さんのサッカー教室、増田美術館特別展「美人画展」、プレミアム商品券（プレミアム率30%）といった事業が続いますが、これらはいずれも様々な機会の創出によって、豊かな日常と地域の活性化をめざしたもので。

また、忘れてはならないのが、70周年の節目に打ち出した、ごみ問題に真正面から取り組む一大プロジェクト「その1gを削り出せ。」です。地球環境に大きな影響を及ぼすゴミは私たちが生み出すもの。ゴミの減量化を全市民で進めることによって、環境負荷を減らし財政負担を低減させ、次世代に大きなツケを残さない持続可能なまちをめざします。

さて、冒頭でお話しした市章の話には続きがあります。実は市章の形や色は伸びゆく大樹と燃ゆる炎を表しており、自然と共生するまち、情熱を持った市民、そして躍進し、繁栄し続ける行橋市が表現されているのです。私はこの市章を見るたびに、シビック・プライド（まちを担うという誇り・自負心）を持った“志民”が、自らと大切な人たちのウェルビーイング（幸せ）、持続可能なまちの実現に向けて協力し、まちを創造する姿を想い浮かべます。

市民が主人公のまち行橋。

本年が「協創」によるまちづくりを推進する元年です。

行橋市長 工藤 政宏